

## 【くさかり】

忍者ごっこをすると、いつもなんとなく怪しい感じになります。

周りが怪しくなり、ぼく自身が怪しくなる。

懐爺によると、

「忍者は生きて帰って帰ることが大事」

ということですが、なんとなく自虐的（じぎゃくてき）な気分になって、生死はどうでもよくなる。

また、

「忍者の忍は、忍びということでもあるが、忍ぶということでもあり、忍耐が大事」

ということですが、ついつい秘密を漏らしたくなる。

なぜって、あれこれ忍術を試したり、懐爺に蘊蓄（うんちく）を聞いたりすると、やっぱりともだちに喋りたくなるのです。

心のほうはともかくとして、身体の鍛練をやっていると、あんなことができたこんなことができた、と、自慢したくなる。

忍者はどうして自慢しなかったのか、不思議でなりません。

ある時期は、身体の鍛練を休んで、知識の鍛練をやったのです。

そのひとつは、薬草と毒草の見分け方。

漫画などを読むと、忍者のことを「草」と書いているものがある。

ということは、草の研究は欠かせません。

これは参考書を読むのが面倒なので、自分の身体で実験するのです。

じっさいに自分が草を食べてみて、翌日気分が良ければ薬草、気分が悪ければ毒草。

そういうことも、どうしても喋りたくなる。

あるとき、それは陰湿な小雨が降り続けているときでしたが、見たことのない草を、小山で発見し、色といい形といい、それがなんとも形容しにくい醜い草だったので、これは大発見だと興奮しました。

喋る前に、さっそく食べてみましたが、翌日気分が良くもならないし悪くもならない。

ということは、薬草でも毒草でもないんだとおもっていると、背中が痒くなってきました。

これは毒草だとおもったが、痒みはすぐにおさまり、そのかわり背中の痒かった部分から、草が生えてきました。

これは、薬草でも毒草でもない、しまった、おばけ草だったかとおもいましたが、もう遅い。

草はどんどん生えて、背中を覆い、顔の方まで押し寄せてきました。

このままでは、わしは草人間になってしまうとおもいながらも、草人間なら、まさしく本物の忍者ではないかと、負け惜しみの気持でおりました。

もう息もしにくいくらい、全身が草で覆われたころ、懐爺から依頼されたと云って、草刈り爺さんがやってきました。

そうして、ぼくの全身を覆った草を全部刈り取ると、どこかに消えて行きました。

ぼくはありがたい気持と、残念な気持が半々でしたから、お礼を云うのを忘れてしまいました。

もしかするとあの草刈り爺さんは、忍者刈りの子孫かもしれないとおもうと、余計に声が出なかったのです。